

めざす学校像・子ども像・教員像		課 題	今後の改善方策
○ 笑顔あふれる学校 ・活気にあふれ、児童生徒が喜んで通う学校 ○ 笑顔が輝く子ども ・自他のよさを認め合いながら仲良く生活し、学ぶことや働くことを喜べる子ども ○ 笑顔でチャレンジする先生 ・教育への情熱と子どもへの愛情をもち、子どものよさを伸ばす教職員		児童生徒増に対応した学校運営の改善	○組織的な指導体制の確立と工夫 ○施設利用についての調整 ○行事の変更、調整
		教員の指導力の向上	○年次研修の充実 ○テーマ研修、授業研修の推進 ○OJTの充実を含む研修スタイルの見直し ○新学習指導要領(中・高)に基づく実践の推進
		就労や自立に向けたキャリア教育の推進	○テーマ研修及び作業学習、職業、生活単元学習、日常生活指導などの指導の充実 ○保護者との連携、進路研修の充実 ○スクールカウンセラーや福祉、労働等の関係機関との連携の充実
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
児童生徒増に対応した安全安心な学校運営	①月1回の安全点検実施と危険個所への迅速な対応	①安全担当を中心に月に一度の安全点検を行うとともに、日々の消毒時に改善箇所がないかも見るようにしている。	
	②職朝時に養護教諭から安全、健康についての情報発信を行い、月に一度避難訓練等の安全指導を行う。	②救急救命法の全体研修は、コロナ禍によりできなかったが、アレルギー等で配慮を要する児童生徒がいる学級担任については、緊急時の対応について共通理解をしている。	
	③行事の変更、調整と使用割の調整	③コロナ禍の影響で行事等の縮小及び中止を余儀なくされたが、児童生徒の学習に支障がでないように代替の行事等を企画し実施している。また、教室割りについては学部間で調整し支障なく運用できている。	
	④保護者教員へのアンケートで「健康安全指導」の項目で肯定的な意見が85%以上	④保護者、教員共に目標となる数値を超える肯定的評価であった。	
キャリア教育の推進と充実	①個別の教育支援計画・指導の指導計画を活用した個人懇談の実施と家庭との連携	①個別の教育支援計画、指導計画については適切に作成し、保護者と連携しながら実施している。	
	②適切な進路選択を行えるような職業・作業学習の教育課程の見直しを2月末までに行う。	②進路担当と学級担任が協力し進路指導を行っている。次年度の職業・作業学習の内容検討については現在(3月)作成中である。	
	③関係機関とのケース会議を必要に応じて迅速に開催する。	③学校内外の指導や支援の在り方について関係機関と相談しながら、日々の指導や困難事例の対応を行っている。	
	④保護者・教員アンケート「個のニーズに応える指導や支援がなされているか」で、肯定的回答が90%以上	④保護者、教員共に目標となる数値を超える肯定的評価であった。	
教職員の授業力の向上	①初任者研修の充実及び2年次教員の教育論文応募	①拠点校指導教員と校内指導教員とで連携し、1年次教諭の授業力向上に努め、無事に研修を終えている。2年次教諭は市教委の論文に応募し、自身の研修を深めることができています。	
	②感染症対策を含めた危機管理に対する意識を高めるために、毎週1回は研修及び職朝で話題に上げる。	②コロナ禍の対応については、日々の報道、市教委からの通知を基に、月、水、金の職朝にて啓発と指導を行い、職員の意識の持続ができています。	
	③テーマ研修を柱に、全員が授業公開の時間を設定し研鑽を深める。(コロナの状況を踏まえ実施方法は検討)	③小集団に分けて、全員が指導案を作成し授業実践を行っている。	
	④教職員へのアンケートで、個に応じた授業づくりについて肯定的意見、前向きな回答、意見が90%以上	④授業(教材)の工夫については目標を達成したが、学習環境の工夫については、コロナ禍の影響でやや下回った。	
<b>学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の狭隘化は深刻な問題であり、併せて現在の校舎の床が痛んでいるなど改修箇所も多く見られる。市教委と連携して取り組んでいくべき課題である。</li> <li>・教員不足、教員の若年化に対して、学校として取り組んでいる教職員の育成は意味のあることであるし今後も取り組んでほしい。</li> <li>・障がいのある児童生徒に対し、青葉校区全体で関わりを持ちながら健全育成を推進していきたい。</li> <li>・学習の様子を参観すると、1学期に比べずいぶんと集中して学習を進めている児童生徒が増えているように感じる。先生方の個に応じた授業づくりの成果だと感じている。</li> <li>・事業所と学校及び保護者との連携強化において、これからはICTも活用したいという学校長の話には賛同できる。事業所としてもできることを検討していきたい。</li> <li>・コロナ禍の対応として、療育センターも学校と同様の課題を感じている。今後も連携を強化しながら課題解決を行っていきたい。</li> </ul>			